

## 端野の教育（その4）

端野町における、端野尋常高等小学校以外の小学校の移り変わりについて、昭和二二（一九四七）年に施行された学生改革（六・三制）までの変遷について要約し記します。

### 緋牛内尋常小学校

屯田兵村の一区は、端野尋常小学校までの里程が約四キロ、雨の日や春先の雪解け時は道路に水があふれ、常呂川が洪水の時などは橋が流れ、渡舟で渡ったり、仮橋が架けられ、強風の時には這って渡ることも度々ありました。

このように通学に危険が伴うので、地元住民の方々が野付牛町会に陳情し、明治四三（一九一〇）年五月五日、一区兵村の部落会館を改修し、端野尋常等々小学校附属緋牛内教授場が設置されました。（下図）校名を「緋牛内」としたのは、通学区域が一区地区と緋牛内地区であったためです。

大正元（一九一二）年、網走線の前線開通により、緋牛内地区の駅周辺には運送業や商店などが進出し、未開地には新しい入植者が急増し、そのため就学する児童生徒も増加し、

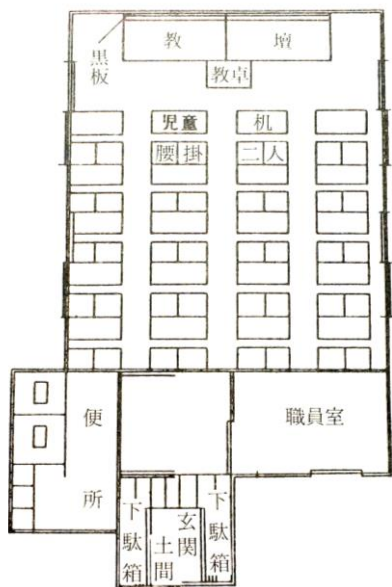
尋常小学校の設置が急務の課題となり、地元住民の方々の強い要望に対応し、大正五（一九一六）年四月一日、緋牛内地区に校舎を新築し、端野尋常高等小学校附属緋牛内教授場として移転しました。

通学区域は緋牛内一円とし、四年生までの児童三十八人、一学級で開校しました。（この開校した当時の写真が次のものです）

同八（一九一九）年、児童数の増加に伴い二学級編成となり、翌九年七月六日、待望の緋牛内尋常小学校に昇格しました。

初代校長は、秋元嘉吉朗先生でした。

その後、さらに地域の発展に伴い児童数が増え、同一二年には、一学級が七〇人を超えることから三学級制としましたが、教室がないたため青年会館を仮校舎として授業を始めました。



▶明治43年開校  
端野尋常高等小学校附属緋牛内教授場平面図

大正一五（一九二六）年、二教室を増築し、昭和三（一九二八）年四月一日から、高等科を設置し四学級編成となり、昭和期の教育に発展していきました。

▼移転新築した緋牛内教授場 大正5年4月1日開設 入学記念



## 一区分教場

兵村一区に設置されていた緋牛内教授場が、大正五（一九一六）年四月、緋牛内に移転になった後は、端野尋常高等小学校一区分教場として設置され、尋常科二年生までの児童が通学しました。そのため、児童は本校通学するようになりました。

なお、一区分校が再び開設されたのは、戦後の昭和二一（一九四六）年六月からでした。

## 忠志（小牛）尋常小学校

### 私設教授場設置

明治四四（一九一）年に、この地に入植した愛媛県新居郡中萩村の人たちは、子どもへの教育が大切であるが、公立の学校に通学させるには五、六キロの道程があり、子どもでは歩けないほどの悪路と熊の出没の危険もあり苦慮していました。そこで、地区の人々の総意により、同四五（一九一）年、入植者の一人である野口伝蔵氏の小屋で、勉強の世話役も野口伝蔵氏が担い、寺子屋式の私設教授場が設けられました。

その後、大正二（一九一三）年に、川口吉三郎氏の小屋で、同四年に稲葉源之助氏の倉庫で、この私設教授場が同五年まで継続されてきました。この私設教授場が、忠志尋常小学校の創始です。

## 公立教授場の設置

大正五年一〇月、この私設教授場が、端野尋常高等小学校附属小牛教授場となり、校舎は私設教授場であった倉庫で必要な教材や施設を揃え専任の先生も配置され、正式の授業が始まりました。「小牛」という校名は当時、この地区は「小牛」と言われていたからです。

この頃から、忠志（小牛）地区には、島津農場（後北見農場）の開設や大同マツチ製糖工場の操業が始まり、さらに北海道製糖工場株式会社の甜菜採種園の経営が始まり、商店、工場、社宅などが軒を並べるように発展しました。

定住の増加に伴い児童数も増え、教授場が手狭になり、同七（一九一八）年七月、小牛教授場の新校舎が、旧忠志小学校と同じ場所に完成しました。

私設教授場から小牛教授場校舎の新築までに経緯を図表化すると、下図のとおりです。

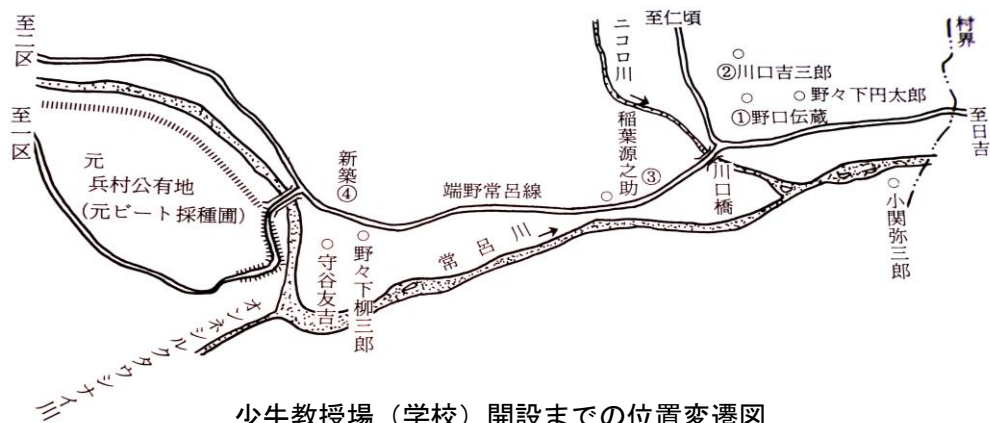
### 尋常小学校

前記のような創始期の私設教授場、小牛教授場を経て、昭和七（一九三二）年一月一日をもって小牛尋常小学校に昇格しました。

児童は、七四人（男子三五・女子四二）の二学級編成で、初代の校長は、菅野運吉先生でした。

以後、昭和二三（一九三八）年、字名改正

により、地区名、学校名が「小牛」から「忠志」に改称され、戦後の学制改革まで学校教育の振興発展に大きな役割を担ってきました。



- |   |               |                     |
|---|---------------|---------------------|
| ① | 明治 45年 (1912) | 私設教授場開設、野口伝蔵の小屋で    |
| ② | 大正 2年 (1913)  | 移転、川口吉三郎の小屋へ        |
| ③ | 4年 (1915)     | 移転、稲葉源之助の倉庫         |
| ④ | 5年 (1916)     | この倉庫を借りたまま公立小牛教授場開設 |
| ④ | 7年 (1918)     | 小牛教授場の本校舎竣工         |